



六和会会報

同窓会会報

VOL.50

令和2年9月1日発行

学園長先生ありがとうございました!



追悼特集

禿了滉先生を偲んで

目次

- 2 寄稿 園歌・学歌に学園長先生を偲ぶ 学長 禿 正宣
ご挨拶 学園長先生と歩んだ50年 会長 渡邊友子
- 3 令和元年度六和会総会のご報告
関西支部六和会総会中止のお知らせ
令和2年度の大学祭について
仁愛女子短期大学同窓会 令和元年度の会計報告
- 4 追悼特集 禿了滉学園長先生ご逝去
- 5 “学園長先生に学ぶ”—深淵なる宗教的教育理念
仁愛女子短期大学名誉教授 清水英男
学園長先生を偲んで 副学長 島田貢明
学園長先生との思い出
生活科学学科食物栄養専攻教授 牧野みゆき
- 6 禿了滉先生を偲んで
 - ・昭和43年度卒業 岩木弥恵子 (旧姓 谷本)
 - ・昭和43年度卒業 宮永百合子 (旧姓 横式)
 - ・昭和47年度卒業 大久保郁子 (旧姓 佐藤)
 - ・昭和49年度卒業 寺崎美智江 (旧姓 吉田)
 - ・昭和58年度卒業 龍谿志穂美 (旧姓 島田)
 - ・平成14年度卒業 木下奈々美
- 7 卒業生はいま…
 - ・昭和52年度卒業 岩田喜代美
 - ・平成6年度卒業 川口 智絵
- 8 同窓会活動報告
くらすコンサート開催延期のお知らせ
保育士資格をお持ちの卒業生の皆様へ
仁短公式SNSを是非ご覧ください!
短大インフォメーション



先日行われた
六和会会報の
リモート会議風景

寄稿

園歌・学歌に学園長先生を偲ぶ

学長 禿 正 宣



学園長禿了滉先生が急逝されてはや半年が経過してしまいましたが、今般の新型コロナウイルス禍により、皆で様々な思い出とともに故人を偲ぶ機会を設けることもできないまま、時だけが過ぎゆき、まことに申し訳ないこととなつていきます。

園讃歌「いのち輝く」や仁愛大学の学歌も、ご自身で作詞されました。二十一世紀になってできた大学の学歌はやや趣を異にしていますが、他はすべて初代学長の禿了信先生による短期大学学歌「ねがい」と同じく、「和敬・精進・反省」をテーマとして作詞され、歌詞もそれに合わせて三番までとなつていきます。なお、仁愛大学の学歌は、二番までで、「深きいのち」と「広いのち」（二番）、「重きいのち」と「尊きいのち」（二番）と、かねがねお話されていた「いのち」のつながりへの感動、感激が詠み込まれています。

「和敬・精進・反省」の言葉は、了信先生が建学の精神の実践目標として掲げられたものですが、学園長先生もこれを「学園是」としてきわめて重要視されておられました。近年、建学の精神についての職員研修も恒例化してきたおかげで、これらの言葉にも一層理解が深まり、学科専攻のディプロマポリシーにも、また自己点検評価のチーム名にも取り込まれるようになったことは、まことにありがたいことです。

かねてより循環器系の持病を抱えてはおられましたが、二月にそれとは別の原因で入院されているうちに急逝されたもので、それまでは至極お元気でした。年明けのアッセンブリ・アワーでは学生に宗教講話をされ、学生からも盛大に拍手を送られる様子からは、まさに生涯現役の生き方の見本を示されておられると感じたものでした。

お若い頃には、尺八に弓道、晩年には俳句や俳画にいそしまれ、特に俳画については法語を添えた三冊の画集「寿光のメッセージーⅢ」として遺されました。このように多才であられて、附属幼稚園、仁愛保育園の園歌、そして百周年記念の学

これからも、みなで園歌・学歌をうたいつづ、「和敬・精進・反省」の実践につとめていくことが、何よりの故学園長先生への追悼になると思う次第です。

合掌

ご挨拶

学園長先生と歩んだ50年

会長 渡 邊 友 子

会員の皆さま、今年はコロナ感染拡大により外出自粛を余儀なくされ、何かと自由な毎日を送られていると思います。心よりお見舞い申し上げます。

平成18年9月40周年記念では、「こと」「まこと」冬の東尋坊に思うことと題して、「人生をしっかりと見つめて生きる」お話で、出席会員全員が必須科目として受講。

平成19年5月学園長の「胸像」を寄贈。令夫人明子様ご臨席のもと除幕式を行い、台座正面には学園長自筆の建学理念「仁愛兼濟」に導かれての言葉が刻まれています。

先般コロナが拡大する直前の2月18日学園長禿了滉先生が94歳の天命を全うされてご逝去されました。

学園長先生には、折に触れて同窓会へお心寄せ頂き、運営・活動など詳細に渡りご指導ご指示を仰ぎながらの日々でした。同窓会50年の歩みと共に、いつも学園長先生が側にいらつしゃいました。

振り返りますと、平成8年9月30周年記念の中庭整備事業では、学園長（当時は学長）の揮毫による教育理念を刻んだ記念石碑「共照」の寄贈。礎石には学長の言葉が添えられていました。

この中庭は、開学30周年を記念して同窓会が発願推進したものである。「共照」は、経文の青色青光赤色赤光に由来し、21世紀を支える基本理念としてその広まりを願うものです。平成7年10月禿了滉

平成10年3月30周年記念事業のもう一つは、禿了滉学長著 講話集「人生と仏教」出版。学長の全講義を1冊に収録したものです。あとがきには、「仏教を単なる知識や教養として知るだけでなく、人ひとりが自分

の問題として取り組んでもらうように『本当に生きる』ために素晴らしい「いのち」の事実をみつめることにありました。」と記されています。

平成18年9月40周年記念では、「こと」「まこと」冬の東尋坊に思うことと題して、「人生をしっかりと見つめて生きる」お話で、出席会員全員が必須科目として受講。

平成19年5月学園長の「胸像」を寄贈。令夫人明子様ご臨席のもと除幕式を行い、台座正面には学園長自筆の建学理念「仁愛兼濟」に導かれての言葉が刻まれています。

そして、50周年記念の平成29年3月短大開学50周年記念の建学精神モットー「仁愛兼濟」の建設費の募金活動による寄付金贈呈。

10月学園長禿了滉著「六和と世灯」一折々の記一発刊、学園各機関紙に寄せられた寄稿文を1冊にまとめました。最後に、29年8月の同窓会への寄稿文「同窓会のバトン」を抜粋しました。

50年にわたって同窓会から頂いた数々のご支援に対し深く御礼申し上げます。同窓の皆さんがそれぞれの地域や立場で活躍され、各方面から高い評価を得ていることは何にも勝る本学の支えです。今後益々のご活躍を念ずる次第です。同窓会も一種の生命体。先人の残された業績を受けつぎ、未来に発展的につなぐレースを、力強く展開されますよう切に期待しております。

同窓生一同感謝し、ご冥福を念じます。

令和元年度 六和会総会のご報告

昨年、二年に一度の六和会総会が令和元年10月5日(土)仁愛女子短期大学を会場に開催されました。

総会では、同窓会の活動や会計等の報告があり、適正かつ円滑に運営されるとの監査報告にて終了しました。



短大のカフェテリアにて



サプライズのマジックショー



香月先生を囲んで、記念の一枚

昼食会では、リニューアルされた短大のカフェテリアでお弁当をいただきながら、楽しいひとときを過ごしました。また、ご出席いただいた禿正宣学長、島田貢明副学長のテーブルでは、懐かしい話に花を咲かせる同窓生の姿が多くみられました。また、サプライズのマジックショーもあり、おおいに盛り上がりました。

その後、会場をC421教室に移し、公開講座「人生は楽しいもの? 苦しいもの?」(講師/幼児教育学科准教授 香月拓先生)のお話を聞きました。お釈迦さまが説かれた「楽しさ・苦しさ」について分かりやすくお話しいただき、同窓生の皆さんが首を大きく振ってうなずかれています姿が印象的でした。

おいしい食事、たくさんの笑顔、素敵な講演と、改めていま生きている幸せを実感することができた一日でした。

関西支部六和会総会中止のお知らせ

同窓生の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より同窓会活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

今年度は、六和会総会を関西支部で開催する年にあたりますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、また、同窓生の健康と安全を第一に考え「中止」とさせていただきます。ご理解、ご了承いただけますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大が1日でも早く収束し、次回の関西支部での六和会総会には同窓生の皆様に笑顔で再会できることを心から願っております。

皆様には、一層のご健勝とご多幸にてお過ごしください。皆様のご健勝とご多幸にてお過ごしください。皆様のご健勝とご多幸にてお過ごしください。



令和2年度の大学祭について

令和2年度の大学祭について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、学内関係者(学生・教職員)のみ参加での開催になる予定です。大学祭を楽しみにされていた皆様におかれましては、大変申し訳ございませんが何とぞご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

【仁愛女子短期大学同窓会 令和元年度の会計報告】

総会中止に伴い、令和2年度役員会において会計報告が承認されました。今年度は、書面をもってご報告いたします。

仁愛女子短期大学同窓会 2019年度(令和元年度)会計報告 2019年4月1日~2020年3月31日

収入の部	
項目	金額
入会金	3,810,000
同窓会総会会費	42,000
雑収入	10,000
受け取り利息	11
前年度繰越金	3,896,931
合計	7,758,942

支出の部	
項目	金額
通信費	1,022,219
印刷費	1,526,373
事務費	110,079
会議費	271,380
人件費	275,000
慶弔費	52,618
雑費	388,788
同窓会総会費	112,896
特別会計算出	1,270,000
次年度繰越金	2,729,589
合計	7,758,942

監査報告

令和2年7月8日、仁愛女子短期大学同窓会室において、2019年度(令和元年度)の事業内容並びに、関係書類、帳簿等を監査した結果、正確に整理されており問題のないことを証明し、ここに監査の報告を申し上げます。

令和2年7月8日

監査委員

山下清美 印

追悼特集

禿 了滉 学園長先生 逝去

禿 了滉 学園長先生が、令和2年2月18日(火) 逝去されました(享年94歳)。
高等学校から始まり短期大学、短大附属幼稚園、そして大学と、先生の歩みは学園の歴史そのものでありました。
学園の発展のためご尽力されたそのご功績の一端をご紹介します。



■ 主な経歴

学校法人福井仁愛学園学園長	平成8年4月～令和2年2月18日
学校法人福井仁愛学園理事長	昭和47年12月～平成18年1月
仁愛女子短期大学長	昭和44年4月～平成18年3月
仁愛女子高等学校長	昭和40年4月～平成8年3月
仁愛女子短期大学附属幼稚園長	昭和44年4月～平成18年3月
社会福祉法人仁愛福祉会理事長	昭和49年4月～平成8年3月

■ 主な受賞

従五位	令和2年3月17日付閣議決定
勲三等瑞宝章(私学振興功労)	平成14年4月29日
福井県政功労賞(教育功労)	昭和58年5月3日
藍綬褒賞(女子教育功労)	昭和58年4月29日
福井県知事表彰(私学教育功労)	昭和46年11月12日

■ 主なご功績

仁愛女子高等学校の刷新、部活動の振興

高等学校は昭和20年の戦災、昭和23年の福井震災による壊滅的な痛手から少しずつ立直っては来たものの、教育内容は戦前からの家庭婦人としての教養教育、裁縫女学校の色彩を強くもつ家庭科高等学校でした。先生は当時の理事長・校長であった父 禿 了信先生を助け、昭和37年から教頭として、昭和40年4月から校長として、同校の教育を近代社会の担い手としての女子教育に変貌させるべく活躍しました。加えて、校地の拡張、グラウンド用地の取得などを行いました。

また、部活動の振興にも力を注ぎ、先生が就任するまで同校の方針として、家庭婦人に勝負は不用と対外試合は一切禁じられていましたが、それを改め、昭和37年には福井県高等学校体育連盟(県高体連)に加盟、運動部、文化部ともに力を入れました。

仁愛女子短期大学附属幼稚園の設置

短期大学に保育科の設置を企画推進すると同時にキャンパス内にその研究、実習施設として、附属幼稚園の設置を企画し、昭和41年4月保育科(現幼児教育学科)の設置と同時に附属幼稚園を開園しました。

以来、数回にわたり園舎の増改築、体育館、図書館、プール、アスレチック広場等年々施設の拡充を図ってきました(現園舎は平成29年に改築)。

県内私立幼稚園では唯一3～5年周期で公開保育研究会を開き、県内及び近県の公私立幼稚園、保育所の教諭、保育士の研鑽の場として現在も活発に研究討議がなされ県内の幼児教育の一端を担っています。

社会福祉法人 仁愛福祉会 仁愛保育園の設立

学園創立者 禿 了教先生は深く聖徳太子のご事業を仰がれ、四箇院(敬田院、悲田院、療病院、施薬院)のうち、敬田院に当たるものとして婦人仁愛会教園(学園の前身)を、悲田院に当たるものとして福井育児院を同じく明治31年4月福井に創設しました。その後、福井育児院が絶えてしまったので、創立者の念願を思い、昭和49年4月、社会福祉法人仁愛福祉会を創立し、仁愛女子短期大学の至近距離に仁愛保育園を設立して、福祉事業を行うと同時に、短期大学幼児教育学科の学生に対して、福祉の心と実技の実習の機会を得る場としました。

仁愛女子短期大学の設置

昭和30年代に入ると女子の高等教育志向は急速に高まり、先生は、まず当時高等学校に設置されていた被服専攻科のカリキュラムを短大の内容に近づけるとともに、地域の要望に応じて女子短期大学の設置を企画、たまたま福井市に隣接する森田町からの短大誘致の動きもあって、昭和39年1月、森田町天池地区(現福井市天池町)に校地を取得、それからは一気に短期大学(家政科)設置に向かって突き進みました。校舎建築、指導体制の確立など設置準備全般にわたり奔走し、翌年昭和40年4月に仁愛女子短期大学を開学しました。昭和57年4月には、武生市(現越前市)の誘致により武生キャンパスを開設し家政学科(現生活科学学科)を移転、福井キャンパスには保育科(現幼児教育学科)・国文科・音楽科を置き、県内の高等教育を大きく推進しました。

仁愛大学の設置

平成に入って男女共生社会の推進が国の方針となり、高校生の進学が女子においても四年制大学を志向するようになったこと、日本の社会において人間関係が切れて孤立化の様相が深まり、今こそ、「仁愛兼濟」の精神(人間のつながりの認識、すべてのいのちへの敬愛と共生、それに基づく思いやりと社会貢献の実践)をアピールすべきと痛感したこと、福井県及び武生市(現越前市)から大学の設置を要望されたこと等により、先生は平成8年男女共学の四年制大学の設置を決意し、自らが福井県、武生市をはじめ各方面に協力要請し、設置を軌道にのせました。そして、学園創立百周年を機に短期大学の武生キャンパスに平成13年から仁愛大学を設置(福井キャンパスには短期大学として3学科に統合)しました。



仁愛女子短期大学 名誉教授 清水 英男

“学園長先生に学ぶ”— 深淵なる宗教的教育理念

まず、先生の経歴についてその略歴を紹介しよう。先生は旧制第四高等学校を卒業し、京都大学哲学科に入学し、次いで大学院を卒業された。卒業と同時に、昭和28年(1953年)仁愛女子高等学校の教諭、兼校長代理として赴任された。

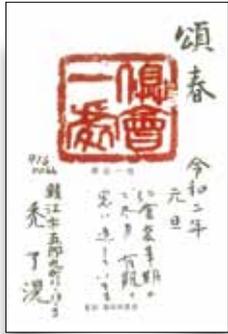
さて、昭和25年に短期大学制度が発足すると、毎年、全国的に女子の短期大学が設立された。当時は4年生大学への進路より短大志向が強く、新設校が増加の二途をたどる中、本学園も短大設立の準備に着手したのであった。昭和40年度の開学に向けて準備を開始したのは、昭和35、6年ごろからで、先生は先導的に推進役を務められた。40年(1965年)4月開学すると同時に学長代理に就任され、次々と学科増設の推進の任に当られた。学園長に就任されたのは平成8年(1996年)であった。その間、昭和58年(1983年)には藍綬褒章、次いで平成14年(2002年)には勲三等瑞宝章を受章された。

ここで先生から直接、個人的にお聞きしたエピソードを二つ紹介しよう。先生は生まれた時、虚弱児で医者が「この子は15歳までの命が無理かもしれない」と言われたとのこと。次いで、高等学校に在学中の18歳の頃、肺結核を患い、半年間入院された。まだストレプトマイシン特効薬が発見されていない時代で、看護婦から献身的な看護を受けて感動されたのである。「以後、自己中心的考えが大きく変わった」と語られた。実はこの時が、先生の「親鸞聖人の教えとの出会い」であった。

さて、本題の学園長先生の教育理念について語るには、「20世紀の時代認識」を知る必要がある。20世紀は目覚ましい科学技術の進展に追われ、「豊かな心のつな

り」を失い、物中心で人間喪失の世紀であり、戦争と差別の時代であった」と先生は概観された。その認識に立脚して「21世紀は人間回復の世紀」、つまり「平和な世界」が世界中の願望であった筈なのに、凶悪犯罪の一般化、低年齢化など、寒々とした社会現象が拡大傾向にある」との認識である。今こそ人間という漢字が示す如く、人は関係的存在という組織に立脚して初めて人たりうるのだ、と説く。そして、(1)人と人とのつながりを通じて、(2)自己の命の広さを見つめ、(3)自然との関係を通して生きることの重要さに気付くこと、(4)命の尊厳性に感動する、以上の4点のつながり、四恩を自覚し、限りなく生かされている命の感動を教育活動の出発点にすべきだと、その著書で書いている。そして、これが仁愛学園の出発点だと強調された。

最後に、学園長先生からいただいた最後の年賀状を紹介したい。



「俱会二処(くえいつしよ)仁愛変革期の「ご尽力有難く思い返しています。」
「くえいつしよ」とは、仏と二つのごころ、即ち浄土で出会うこと、である。()

著者/しみずひでお
昭和33年 同志社大学文学部教育学科専攻卒業
昭和34年 仁愛女子高校教諭、英語担当
昭和40年 仁愛女子短期大学講師、助教、教授
平成19年 英語、教育学担当
昭和50年、平成19年 福井大学非常勤講師、英語担当
退職

学園長先生を偲んで

副学長 島田 貢明



「人の世の花園をつくろう、美しい世をひらく灯となろう。」「短期大学は決して四年制大学の2分の1大学ではありません。根の力を育てこれからの長い人生の方向と生き方を決める、貴重な体験の場なのです。」これは学園長先生が、式典などの挨拶でいつも皆さんに語り続けてきた言葉です。本学の建学の精神を表す言葉であり、私もこの言葉に立ち戻るように心掛けてきました。

また、学生に対する支援に力を惜しまない方でした。仁短祭のテーマに沿ったパンフレットの表紙絵を学園長先生にお願いしていましたが、



大変お忙しいにもかかわらず快諾していただきました。その原画を改めて見て当時のことが思い出されます。幼児教育のブランディング事業が全国の短期大学として唯一採択されたときには、一番喜んでくださいました。昨年末の全学教授会での、「短大はよく頑張っている」とのお言葉が最後となつてしまい、大変残念です。これからも、冒頭に紹介した学園長先生のお言葉を大切にしていきたいと思えます。

学園長先生との思い出

生活科学学科食物栄養専攻教授 牧野みゆき



いつも学園長先生の優しい眼差しとお声がけに励まされてきました。武生キャンパスで食物文化コースの大量調理実習を担当していた時に「今日のエリアは本場のものより美味しかったよ」などと褒めてくださり、苦勞が報

養指導してもらえんか」と研究室を訪ねてこられたことが数回ありました。しみじみと「食事は大切だね」と仰っていたことが懐かしいです。

われた気がしていました。当時の私は(今も)人見知りでおとなしく、大量調理経験がほとんどないのに授業がうまくやっていたのか心配だったのでしよう。

平成9年最初の全学会議で、河合隼雄氏が書かれた「ひとつに賭ける」という記事を引用してお話されたことが強く印象に残っています。歳をとった今は「生かされている」と強く実感するようになりまし。学園長先生の数々のお言葉を思い出しながら、精一杯生きていきたいと思えます。

福井キャンパスに移ってからは、「栄

禿了滉先生を偲んで

昭和43年度卒業
保育科

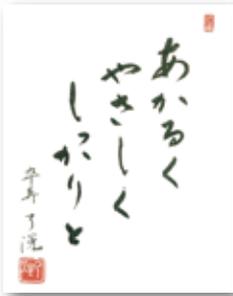
宮永百合子
(旧姓 横式)



平成27年10月に学園長室を訪れた折のこと、先生と握手をしたまま、♪我らは仏の子どもなり。嬉しい時も悲しい時も親の袖にすがりなん♪このように幼き頃の歌を一緒に唄ったのも思い出の一つです。室内は笑顔でいっぱい！声もお元気だし、指も長くて柔らかくて…優しい心が伝わってきて、涙があふれんばかりでした。

禿先生から仁愛学園創立120周年記念の折には、一日一日をみ佛の浄土を目指しつつ68年間の在職に感謝していることなど伺うことが出来ました。

そして、手元の画紙に”皆様のご健勝ご活躍を念じています。合掌”と書いていただき、卒業生の私は感謝の気持ちでいっぱいになったのを昨日のここのように思い出します。



つながりあって かがやいて

平成14年度卒業
幼児教育学科教育情報コース

木下奈々美



仁愛附属幼稚園に勤務し、私は子どもたちと共に学園長先生からたくさんのお話をお聞きすることができました。園舎に入るとすぐに、いのちとひかりのホールがあります。そこには「つながりあって かがやいて」という言葉が書かれています。ここを通る度に、「四恩（親、祖先・人々・自然・仏さま）によって限りなく生かされているご恩に気づき、ありがとうの心を基盤に、みんなで仲良く、にこにこ元気で過ごしましょう。」と言われた学園長先生の優しい声と笑顔が思い出され、温かい気持ちになります。これからも、この思いを子どもたちや職員と共有し、いつまでも学園長先生とつながりあっていたいと思います。



学園長先生との思い出を
同窓生の方々に
寄稿していただきました。

学園長先生を偲んで

昭和43年度卒業
家政科

岩木弥恵子
(旧姓 谷本)



いつもお元気でかくしゃくとされていた学園長先生の訃報を知り驚きました。同窓会でお会いする時は、いつもにこにこ笑みを浮かべておられ、笑顔の学園長先生しか思い出せません。卒業後の同窓会での関わりの中で、思い出は多くありますが「子育ては手をかけ過ぎてはだめですよ」と言われたことが最も記憶に残っています。幼い孫の相手をしていてつい手をかけ過ぎた時、学園長先生の教えが思い出されます。

これまでのご指導に感謝するとともに、学園長先生のご冥福を心からお祈りいたします。

禿了滉先生を偲んで

昭和49年度卒業
児童教育学科 幼児教育専攻

寺崎美智江
(旧姓 吉田)



思い返せば、昭和49年の3月、仁愛保育園の落成式と祝賀会が保育園のホールで行われた日のことです。短大を卒業したばかりで何もわからない私は、胸をどきどきさせながら先生のもとへ挨拶にいくと、「これから大変だと思うけどお願いしますね。」とにこにこしながらおっしゃって下さいました。私にとって、それが先生から頂いた初めてのことばでした。

そして、昨年仁短祭の日、私が制作した作品の前で、「いいことしているね。」と声をかけてくださったのが最後のことばでした。

46年間、私は先生のことばに支えられ育てて頂きました。ありがとうございました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

励ましのお言葉

昭和47年度卒業
児童教育科保育コース

大久保郁子(旧姓 佐藤)



学生時代の2年間、附属幼稚園勤務の7年間、非常勤講師として現在に至る約30年間の計50年間、先生はお会いするたびに「元気だね」「いつも頑張っているね」と、片手をあげてニコリ笑顔でお声かけくださいました。そのお姿を今懐かしく思い出しております。

その中でも一つ心に留めている言葉があります。幼稚園勤務間もないころ、他園での研究大会の館内放送の役割での出来事です。放送を間違え、「失礼しました」と言い直して放送したことがありました。先生は大会視察を終えて帰られる時、「放送良かったよ。でも、失礼しましたと言い直しをしなくても済むように出来るといいネ!」とお言葉をかけて下さいました。このお言葉を私は、「今できることを精一杯行い、悔いのない人生を歩め」と受取り今でも大切に守っております。厳しさの中に温かいエールをいつも下さる素晴らしい先生でした。

禿了滉先生を偲んで

昭和58年度卒業
児童教育学科 幼児教育専攻

龍谿志穂美
(旧姓 島田)



「卒業したらちゃんと富山に戻りなさいよ。」これは学園長先生(当時学長)が、六和寮をたずねてくださる度に、寮生であった私にかけてくださった言葉でした。当時はそれを少し面倒にも思ったものですが、今思えばそれは子を心配する親心そのものであったと身に沁みえています。

結局私は言いつけを破り、仁愛短大勤務の龍谿と結婚することになったのですが、学園長先生は大変喜んでくださいました。何年に一度かお会いすると、私には夫の仕事ぶりを褒めてくださり、また夫には私の仕事ぶりを褒めてくださっていたようです。

これが学園長先生と私との小さな関わりですが、人の心を温かくする大きな存在として、今でも私の心に根付いています。

卒業生はいま...

置かれた場所で咲きなさい

昭和52年度卒業 児童教育学科幼児教育専攻

岩田 喜代美 (はちまんこども園)

還暦を迎える頃、「置かれた場所で咲きなさい」という本を手に入れました。咲くということは、諦めるのではなく、笑顔で生き、周囲の人々も幸せにすること。置かれた自分の居場所で自分なりの花を咲かせようと心に留めました。今までとは違った花を咲かせて楽しもうと、気分は上昇しました。

保育現場在職を継続させてもらいながら、「やってみたいこと」を静かに始めています。

今年は、コロナウイルス感染の影響で、園は登園自粛の協力をお願いしました。休園はせず、まず密を避けることを考慮しドキドキしながらの毎日です。自宅待機の子もたちに、体操、歌、絵本などの動画配信をしました。作成チームの仲間に入れてもらい、集団の一員である心地よさと、若い保育者のデジタル機器の扱いに脱帽でした。

一方、洋裁に花を咲かせています。私には苦手、無理、下手だと思っていましたが、「やってみたい」が後押ししました。幸い作りたい物を丁寧に教えてくださる教室に出会いました。布を選ぶ、組み合わせる、型紙をつくる、ミシンを買うと新鮮なことばかりでした。袋物、コースター、



バック、チュニック、ワンピースと少しずつですが腕を上げている錯覚に満足しています。この教室は、仁愛短大時代の友人の紹介で短大での出会いと絆が今の私の人生を楽しませてくれるひとつになっていると感じています。

そして、花を増やしていくには、今までの概念を捨てることだとわかりました。料理は下手ではないかもしれない、犬は嫌いじゃないかもしれない(犬が怖い) ピアノは、運動は、と自分の弱いところをもしかしたら、自分の思い違いただったかも…と「やってみよう」「なかなかやれるじゃない」につなげることと張り切っています。

新しい時代へ

平成6年度卒業 生活科学学科栄養管理コース

川口 智絵

きっかけは友達の一言だった。「管理栄養士になりたいから、栄養管理コースに行く」その時の私は軽い気持ちで、じゃあ私も栄養士コースにしようかなと決めた。特に大きな夢があった訳でもなかった。何となく選んだ栄養という道をこれ程長く歩んで来られたのは、学生時代に栄養学の楽しさを知ったことが大きい。

卒業後は病院へ就職し、臨床栄養の勉強に没頭した。その後病院に老人保健施設が併設され、高齢者の食事や認知症、嚥下食について勉強した。その時々で栄養の各分野を勉強してきたが、これでいいのかと何年も悩んだ時期もあった。施設で出会ったコーヒーが好きな入所者は、奥さんで行った喫茶店でコーヒーが飲みたいと言っていた。そのお店には行けないけれど、今度施設内カフェで私と一緒に好きなコーヒーを飲みましょうねと笑顔で別れ、結局一緒に飲めなかった。医療・介護の各分野でそれぞれの栄養を経験し、今は不思議と専門分野や各論にこだわらず、広く自由に患者さんや利用者に関わりたいと思えるようになった。

そんな中、2月の終わりから新型コロナウイルスが猛威を振るいだし、福井県でも感染者が増えていった。私の働いている病院・老人保健施設でも新型コロナウイルスの対応に毎日追われている。病院前では検温、面会制限が行われ、オンライン面会となった。病院や施設でも新しい生活様式への変化が求められた。私はこのコロナ禍で食事と免疫、非接触型の食支援について考えるようになっていく。そして、学生時代に最初に学んだ「食べることは全ての命の源である」という原点に立ち返って日々向き合っている。

今後も激変する環境の変化に対して、自分にできる食の道を自分なりに続けていこうと思っている。私は今、次の新たな時代に向けて一歩ずつ進んでいる。



同窓会活動報告

2019年度(令和元年度)

5月10日	学内役員会・会報編集会議	仁愛女子短期大学 第3会議室にて
6月11日	会計調査	仁愛女子短期大学 同窓会室にて
7月 1日	会計監査	仁愛女子短期大学 同窓会室にて
7月 4日	地域とつながる短大教育を 目指して(座談会開催)	仁愛女子短期大学にて
7月20日	理事会開催	ユアーズホテル福井にて
8月20日	会報49号発行	
8月27日	住所変更届作業開始	
10月 5日	2019年度六和会総会	仁愛女子短期大学にて
10月19日	大学祭にて会員による作品展示・ ホームカミングデイ開催	仁愛女子短期大学にて
10月23日	ホームページ更新	仁愛女子短期大学にて

2020年(令和2年)

2月21日	学内役員会開催	ユアーズホテル・ボヌールにて
3月13日	2019年度卒業式 新会員入会	254名入会

保育士資格をお持ちの卒業生の皆様へ ぜひ保育士届出登録を!



あなたを支える、
せっかくの資格。

情報提供は…
昭和53年度卒業
児童教育学科幼児教育専攻
森尾 恵里さん
(旧姓 沢田)

保育の最新情報、研修や求人の情報提供など経験豊富なコーディネーターが再就職のお手伝いをいたします。登録は「福祉のお仕事」ホームページから!「福井県保育人材センター」までお気軽にご連絡ください。

電話やメールでお気軽にお問合せください!

- TEL 0776-21-2294・0776-28-3180
- メールアドレス jinzai-center@f-shakyo.or.jp
- 来所の場合 午前9:00~午後5:00
(第2・4木曜日は予約で午後8:00まで)

- モバイル版はこちらから



福井県保育人材センター

〒910-8516 福井市光陽2-3-22 福井県社会福祉協議会 人材研修課

●●● 就労支援コーディネーター 八木 和 森尾恵里 ●●●

仁愛女子短期大学 インフォメーション

- 現在の学生数(令和2年5月1日現在)
- 生活科学学科 …… 277名
- 幼児教育学科 …… 207名

- 新任 諏訪いずみ(准教授)
帆谷 和浩(准教授)
松田 健志(法人本部法人事務局長)
富士 光恵(保健主事)
毛利みゆき(事務職員)
- 退職 金井 猛徳(准教授)
平塚絃一郎(准教授)
西田 修(法人本部法人事務局長)
朝倉 顕修(事務局長)
渡邊美佐江(保健主事)
釣部 楓(事務職員)

Kreis Concert

くraisコンサート

くraisコンサート 開催延期のお知らせ

残暑の候、皆様には新型コロナウイルスの影響でご心配な日々をお過ごしのこととお察し申し上げます。

さて、令和2年9月5日の「くraisコンサート」に向けて、私達実行委員でも開催についての議論を重ねて参りました。くraisコンサートの開催時期に近い県のコククールをはじめ、様々なコククールやコンサートが中止になっていく状況の中、何よりご出演頂く出演者の方々の日々の練習状況をおもんばかると、なかなか集まって練習する事も出来ず、さらにコンサートを開催しても出演者はじめ関係者、何より聴きにきてくださるお客様にコロナの心配をせずに心おき無く足をお運び頂けるようお声掛けが出来ない状況になるのではないかと、という意見で一致いたしましたので、誠に残念ではありますが今年9月の開催を延期するという決断に至りました。

出演準備や練習に励んでおられ、また開催を楽しみにして下さっていた皆様には誠に申し訳ございません。これも皆様の健康と安全を最優先に考えてのことですので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

尚、延期致します「くraisコンサート」は、おおよそ一年後を予定しておりますが、状況を見て判断し開催日程が決まりました際には、ぜひ再度ご出演のお伺いをさせていただきたいと思っております。その際は何とぞ宜しくお願い申し上げます。

くraisとして最後になるコンサート。演奏者もお客さまも未知なるウイルスに不安を抱く事なく、出来る範囲で心おきなく最後を締め括りたいと実行委員一同思っております。また心から音楽を楽しめる時が来る事を切に願って。

末筆ながら、皆様のご健康を心よりお祈り致します。

くraisコンサート実行委員一同

仁短公式SNSを是非ご覧ください!



再就職の情報提供

一度仕事を離れて再び仕事を始めたいと考えている方には、キャリア支援課で情報提供いたします。現在、特に保育職が求められています。お気軽にお問い合わせください。

◆お問い合わせ先: TEL(0776) 56-1133(担当:キャリア支援課)



【編集委員】 伊藤 桂子 岩田 菜見 植田かおり 大橋 愛美 河合 紀子 木内 貴子 木戸 公恵 熊木 雅代
小角 佳子 酒井 菜那 笹岡 絵美 佐々木美佳 竹下 真弓 仲村 愛 橋本亜優美 毛利みゆき

仁愛女子短期大学 六和会

〒910-0124 福井県福井市天池町43-1-1 TEL 0776(56)1133 http://dosokai.jin-ai.ac.jp/